

ジベレリン処理によるニホンナシ「甘太」の果実肥大促進と収穫期の前進

1 背景・目的

ニホンナシ「甘太(かんた)」(図1)は、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所が育成した晩生の新品種であり、食味が良好なことから全国的に導入が進んでいる。

本県における「甘太」の収穫時期は10月上中旬であり、出荷期間の前進化と果実肥大促進を目的に、ジベレリンペースト剤処理(以下、ジベレリン処理)が果実肥大と収穫期に及ぼす効果について検討する。



図1 甘太

2 技術のポイント

- (1) 満開 40 日後に果実の果梗部へジベレリン処理(30mg/果)を実施する。
- (2) 処理 11 日後以降、果実肥大効果が確認される(図2)。
- (3) 果実重は、無処理区に対して、ジベレリン処理で5割程度大きくなる(図3)。
- (4) 収穫期は、無処理区に対して、ジベレリン処理で収穫開始が4日程度早まり、累積収穫率8割を超える日が7日程度早まる(図4)。
- (5) 果実重以外の果実品質は、いずれの項目も差が認められない(データ略)。

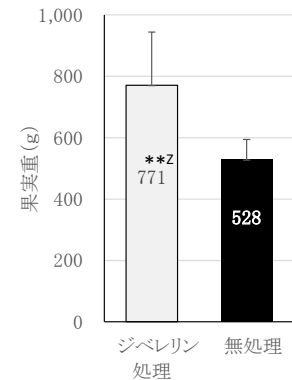


図3 ジベレリン処理が果実重に及ぼす影響

z t 検定により**は1%水準で有意差あり

Y 図中のバーは標準偏差

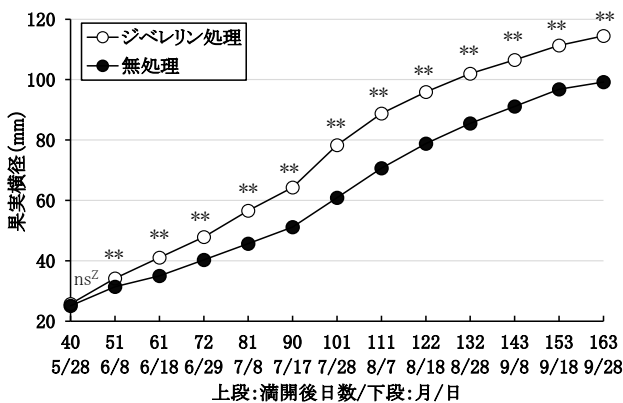


図2 ジベレリン処理が果実横径に及ぼす効果

z t 検定により**は1%水準で有意差あり, ns は有意差なし

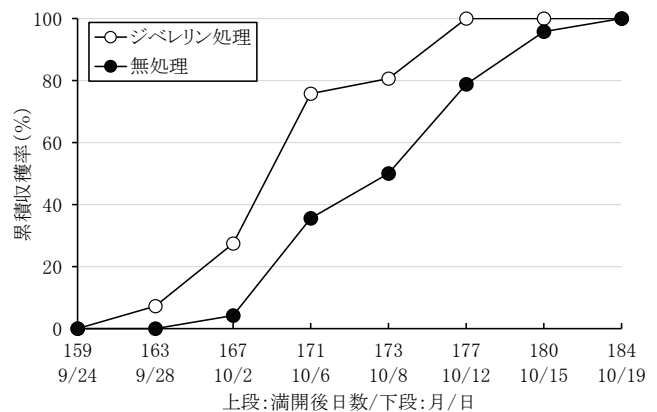


図4 ジベレリン処理が累積収穫率に及ぼす効果

3 成果の活用と残された問題点

- (1) 葉数あたりの適正な着果数を検討する必要がある。